

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第84号

平成31年3月12日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

第二夢丸工房のかるた大会、大いに盛り上がる

大河ドラマ楠公父子物語、NHKに誘致陳情

まさつらカルタ、映像スクリーン紙芝居に

● まさつらカルタ、各地で販売 ●

2月例会の報告事項の中心は、楠正行カルタの普及・啓発活動で、2月3日現在、四條畷市内のすべての学校、教育施設、福祉施設73カ所を含む、楠氏ゆかりの自治体・寺社仏閣・個人・団体、計119セットを寄贈しました。

また、販売委託をお願いした書店・施設は以下の通りです。

四條畷市立教育文化センター
(市内南野)・福助堂書店(市内楠公通り商店街)・くすみ書店(市内忍ヶ丘駅前)・宮脇書店生駒北店(生駒市)・アイアイランド(市内逢阪)・河内往生院(東大阪市)・建水分神社(千早赤阪村)・湊川神社(神戸市)・観心寺(河内長野市)・如意輪寺(吉野町)

楠氏ゆかりの自治体に開催要請をしているかるた大会は、学校行事等の関係上、なかなか実現が難しい状況ですが、四條畷市内では徐々に広がっています。

ひとつご紹介します。

2月4日(月)、四條畷市立市民活動センターの2階にある生活介護施設第二夢丸工房に招かれ、利用者の皆さんとカルタ遊びをしました。

扇谷が読み手となって、午前10時30分に始めましたが、何と午前12時までの約1時間30分の間に、字札はたった14枚しか読むことができませんでした。

この日、歴史好きの方が多いという事と、管理者の方から解説もお願いしますと聞いていたので、絵札一枚一枚について解説を入れたのですが、出るは出るは、質問が矢継ぎ早に飛んできたのです。1枚で10分ほどかかった絵札もありました。大変な盛り上がり、残る字札の続きの開催

をお約束して帰りました。

この日は、カルタ遊びを通した郷土学習の大切さを肌で感じ取ることができました。

● 絵札2枚セット、9場面で試作 ●

また、四條畷楠正行の会では、この度完成した「楠正行くすのきまさつらかるた」の絵札をそのまま使った映像スクリーン紙芝居「楠正行の生涯」を制作中です。

この日の例会では、会場にプロジェクターを持ち込み、扇谷が試作した映像スクリーン紙芝居を上映しました。大阪電気通信大学の学生たちが作ってくれた絵札2枚ワンセット、計9場面の紙芝居で、字句と扇谷作の語りを入れたものです。

上映後の反応は上々で、ほぼ全員から「絵札の内容がよく理解できた。」「素晴らしい!」「子どもたちにも十分伝わるのではないか。」等等、称賛の声が上がりました。

今後、場面設定等精査し完成させた上で、この映像スクリーン紙芝居をもって学校や施設、ゆかりの寺社仏閣等を訪ね、上映会を開催する予定です。乞う、ご期待ください。

誘致の機運、急速にまとまってきていると好反応

島田市長、永島住職らと扇谷陳情

2月8日(金)、扇谷は楠公ツーリズム推進協議会の一員として、NHK大河ドラマ『楠公父子物語』誘致に向けて、NHK大阪放送局を訪ね、陳情して来ました。

この日参加したのは、自治体で構成する「楠公さん大河ドラマ誘致協議会」から、河内長野市島田市長、高石市阪口市長、島本町山田町長、千早赤阪村松本村長の4人、民





間で構成する「楠公ツーリズム推進協議会」から、観心寺永島住職、如意輪寺加島副住職、住吉大社逸見・小出権禰宜、湊川神社鈴木女史と扇谷の6人でした。

また、応対していただいたのは、NHK 大阪放送局角英夫局長、半沢治久・熊谷幸治副局長、城谷厚司制作部専任部長の皆さまでした。

冒頭、楠公さん誘致協議会会長の島田市長から、平成30年4月発足後の取り組みの成果を説明し、「現在、楠氏ゆかりの自治体はもちろんこと、大阪市、神戸市、京都市など近畿のすべての政令市を含む36自治体が加盟し、誘致活動は大いに盛り上がっています。是非、誘致実現をお願いします。」と挨拶。

また、楠公ツーリズム推進協議会会長の永島住職から、「NHK大河ドラマのコンセプト、3つの基準、①地元の盛り上がりがあるか、②史実に基づいているか、③なぜ、今なのか、に照らし、楠公父子の大河ドラマ化を何としても実現していただきたい。」と挨拶。

陳情の最後に発言した扇谷は、「わたしたちは、今の時代に失われている無私、己を空しくして生きた武士道の人・平和主義者楠正行を、次代を担う若い人たちに継承していく取り組みを進めています。絵本やかかるた、正行像賛扇子を制作したのもこのような狙いからです。地元、四條畷では、大河ドラマ誘致の機運が大変盛り上がっていますので、どうか実現を。」と、訴えました。そして、角局長に、「楠正行くすのきまさつらかるた」「正行像賛扇子」「楠正行」(拙著・小説)をプレゼントしました。

角局長からは、以下の通り、楠感等が示されました。

- ・誘致の機運が急速にまとまってきたと感じている。
- ・正成は『義』の人〜もっとも尊ぶべき人への義を貫いた人物
- ・正成の戦い方〜非常に合理的、知略：合理性を感じる。
- ・現代性のあるキャラクターとして認識している。
- ・主人公以外にも歴史上の有名人が出てくる歴史観の確信がある
- ・大河の決定については、時の時局(自然災害等も含め)との関係もある
- ・全国50を超える地域から誘致活動がある
- ・楠公は、舞台が大阪南〜奈良吉野〜神戸と、魅力的ではある

当然のことながら、誘致に確約を頂いたものではありませんが、今後のさらなる取り組み強化と、ゆかりの地における一層の盛り上がりが大切だと感じました。(写真：NHK大阪放送局玄関前で)

正行遺児、池田教正と同姓同名の池田丹後守教正

会員の木村さんが、四條畷市立歴史民俗資料館主催の「歩いて学ぶ考古学講座」配布資料、「若江城について」を例会に持参された。

資料の中に、天正元年、若江三人衆と呼ばれる家老、池田丹後守、多羅尾右近、野間佐吉が信長の命で若江城に入り、野間康久の妹婿の池田丹後守教正が三の丸に居住した、とある。

そして、池田丹後守教正は、摂津で生まれ、70歳で死亡した、しかし池田家系譜には載っていない、とのメモ書きがある。

木村さんは、正行の遺児、池田教正と同姓同名に関心を持ったようだ。

◆池田教正 正行遺児、第二代池田城主

楠正行遺腹の子である。(楠正行通信52号・80号参照)

四條畷の合戦で正行戦死後、正行の妻の実家内藤満幸が北朝方に寝返ったことに正儀が怒り、懐妊していた正行の妻は実家に帰されて後、池田城主教依に再嫁し、生まれた子どもが教正。幼名多聞丸、のち十郎と称し兵庫介とも称した。

教正は2代城主に着くも、子佐正の成人を待って城を譲り、自らは遠く安芸の国佐伯郡五日市村に去り、ここに城を築き、南朝に帰属した。

教正三代の末裔充正の弟、恒元の子恒利は永禄年中に出奔して尾張に移り、その妻が織田信長の乳母となった縁で、諱の一字をもらい信輝と改めた。その子輝政、その子光政は岡山城主となって繁栄し、今日の池田家に通じる。

すなわち、岡山池田家は正行後裔の池田城主池田氏の分流に当たる。

◆池田丹後守教正 16世紀河内キリシタン大名

天正8年(1580)、池田シメアン丹後(池田丹後守教正)は八尾城に入りました。飯盛城で洗礼を受けた73名の武士の一人で、娘は岡山城主結城ジョアンに嫁いでいます。

フロイス日本史には、以下の記述があります。

河内には堅固で、よく整ったキリシタン宗団が存在していた。三箇から二里半ないし三里たった若江と称せられるところである。そこは飯盛城で最初にキリシタンになった人々の内多くの貴人たちが住んでいた。彼らは元来河内の国王、三好殿の家臣であった。しかるに信長は、この三好殿(三好三人衆)を殺害せしめたので、池田丹後シメアン殿が彼らの家臣たちの頭となった。彼は稀有の才能を備えた貴人であり、全く信仰に生き、改宗のことに熱意を燃やし、イエズス会の真の友人であった。彼はその若江にも、立派な司祭館を付した教会を建設した。(四條畷市立歴史民俗資料館・第22回特別展「隠された墓碑」冊子より)

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)